

第5回東郷地域協議会会議録(要約)

日 時 令和6年8月20日(火) PM7:00～9:00
場 所 新城市役所4階会議室
出席者 委員25名 事務局3名

次第

- 1 会長あいさつ
 - 2 協議
(1) 令和7年度地域自治区予算事業の検討について
 - 3 その他
-

1 会長あいさつ

2 協議

協議会の会議録署名

- ・定数29人のところ25人の出席があり会議は成立している。
- ・会議録署名について、会長及び署名委員を2名指名し署名をお願いした。

(1) 令和7年度地域自治区予算事業の検討について

(事務局説明)

- ・前回の地域協議会での意見に対しての市担当課または実行団体の取り組みや意向についての説明があった。

その後、地域計画の5つの柱ごとにグループにわかれ、令和7年度地域自治区予算事業計画の検討を行った。グループ討議終了後、各柱のリーダーから議論内容の発表があった。以下発表要旨。

柱1 暮らそう

- ・地域団体を紹介する情報誌を作るという事業内容となる。冊子作成にあたり、地域団体を一番把握されているのは区長さんなので、区長会に協力を要請し地域活動団体の情報収集をしていただきたい。区長さんに地域団体を紹介していただき、団体と郵便などのやり取りを基に情報を把握したり、活動写真をもらいながら冊子作成をしていただきたい。また、東郷の活動団体に関しては、今思いつく限り、ミニデイや地域の趣味の会、地域活動交付金団体や地域協議会から生まれた団体など、60団体以上はあるのではないかと推測される。そして、予算では、冊子のページ数が32ページとなっているが、現段階では活動団体の全体数把握が出来ないので、仮に調査の結果60団体以上となった場合は、溢れた団体は次年度に印刷を持ち越すことになるかと思う。また、例えば事例にある日野市の取り組みが非常に良かったので、こういった全国的な先進事例を視察に行くための予算も取れたら良いという意見も出た。

○主な意見

事務局 視察は誰が行くのか。

委員 地域協議会の暮らそうのメンバーが行く。事務局も一緒に随行してもらいたい。

事務局 今回の暮らそうの提案は活動団体紹介冊子を作るということ。基本的には、地域自治区予算として地域協議会から提案があった場合、我々職員が責任を持って事業を実施することになる。視察予算に関しては、一度持ち帰って検討させていただきたい。

柱2 守ろう

- ・1 点目の消火器及び防犯カメラの補助について、前回結論が出たと思うので、予算積算は事務局にお任せしたい。
- ・2 点目の公民館のバリアフリー化。前回守ろうで協議して欲しいと話が出たが、そもそも災害に関係なく、これだけ高齢化が進んでいる中で、地域の拠点としての公民館のバリアフリー化は進めるべきだと思うし、守ろうとしてではなく、市の集会施設補助制度を活用して、各行政区で進めていただけたらどうか。守ろうのテーマが多過ぎて、検討は出来ないというのが実情。
- ・3 点目の防災の対応についてだが、8月8日、九州日向灘で震度6の地震が起き、直後に気象庁から南海トラフ地震との連動が懸念されるという臨時情報が出された。1週間という期間で出たが、まだ12日しか経過していない。今起きてもおかしくない状況に本当になってきてしまった。その中で、守ろうとしては、何を提案していくかというのを話し合ってきたが、地域協議会としては共助の部分を担っていけたらと思っている。大災害が起きた場合の東郷地域の市指定避難所は、東郷中学校、東郷東小学校、東郷西小学校の3ヶ所が指定されている。ただ、住民がそこに避難をするかどうかという、実際には考えづらい。それよりもむしろ各行政区の公民館が拠点となり一時避難所を開設し、地域住民を受け入れていくことになるかと思う。そのための避難所としての機能を高めていくということが重要ではないか。市指定避難所だけだと、特に高齢者は、全く見ず知らずの人達と生活を共にしないといけないことに不安を感じる。それよりも地域のおなじみの人たちと一緒に避難をして生活することであれば、避難時のストレスや避難するまでのハードルを軽減できると思う。そのためには、日頃の生活の延長線上に近い機能を、避難所として公民館が備えていく必要がある。例えば、台湾の地震を覚えているかと思うが、あの時に、テレビを見た際に、体育館みたいな避難所に、屋根つきのテントを並べ、プライバシーが守られる形で、避難をしていた。それから、この間の宮崎の地震では、避難所がテレビで映ったが、屋根つきのテントではなく、周りから区切られるようなパーテーションを用いられていた。プライバシーを守ること、普段通りの生活に近い形で避難するということが本当に必要であると思う。ただ、まずはトイレが欠かせないと思う。トイレは生命維持に欠かせない。食料や飲料ももちろん必要だが、人間は排泄をしないと生命を維持できない。トイレが使えない状態というのは絶対避けないといけない。そういう意味で、地域協議会として簡易トイレとプライバシーを守れるような簡易テントを各行政区にお渡しできたらと思う。その際の予算については、補助という形ではなく、行政区の負担無しで、市からの無償貸与ということで進めていただきたい。また、無償貸与ということは、所有権は市にある。所有権が行政区にないということは、行政区にと

らわれず使用できる。大きな災害の場合で、被害が少ないところの備品を被害が大きいところに転用することも出来る。そうすることで、各行政区間の連携、コミュニケーションがもっと図られる。今本当に災害が起きて、各行政区で避難所開設をしても、例えばどこに何がどれだけ必要なのか、といった情報の交換さえ出来ない。そういう意味では、行政区間の連携をしていただく組織があると良い。それが例えば東郷の防災を考える会となるかもしれないので、今後話を進めていかないといけない。防災備品は、お店ではほとんど品切れになっていた。今日の夕方のニュースでも言っていたが、水も不足してしまっている。いずれにしても、直近の立て続けに起こった地震により、住民の防災意識が高まったと思うが、今回のトイレ整備を進めることに関しても、なるべく急いで対応していただきたい。基本的に令和7年度の計画を立てているが、本当に少しでも早く、出来れば年度内に揃えることが出来たら良い。

柱3 育てよう

・休耕地活用検討事業について集中的に話し合った。今年度の予算も取っているのでもうまく活用していただきたい。先進地の話を聞いたりして、そこでの活動内容などをZoomでも良いが、出来れば実際に行って、食事などしながら交流していく中で、本音が出て、新しいアイデアが生まれたりすると思っている。現在、地域再生プロジェクトメンバー募集の回覧チラシも回っているが、続々と集まっているようで、熱い思いを持った方が何人か手を挙げていただいているみたいなので、その方たちと9月に一度集まり、それぞれの思いを共有しながら、どういう方向で活動出来るのかということをお話し合っていきたい。もし、何かやりたいことが出てきた場合には、地域活動交付金などを活用していただくことになると思うが、来年度プロジェクトメンバーの活動費、例えば講師料を計上していただきたい。あと、例えば高校に耕作放棄地で花木や香の木を植えたりする生徒を募集し、少しアルバイト的な、研修的なことをやらせたりしたり、あとは、移住者に向けて、空き家、農地、農機具、小屋をセットで貸し出せるということをどんどんアピールして、若い人が移住してくるようにしないと将来がない。来年度の予算には結びつけられないが、再来年度になったらもしかしたら事業提案が出てくるかもしれない。例えば、竹をチップにする機械やルンバみたいな自走式の除草機を購入し、地域の耕作放棄地の課題を解決していくようなアイデアが生まれてくるかもしれない。

柱4 学ぼう

・検定試験合格記念品の合格通知の郵便料だが、今年の10月から値上がり予定になっているので、金額を修正する必要があるのではないかと。また、450周年事業に関し、どのような予算が必要かを協議した。鳳来中部、舟着との話し合いの内容は割愛させていただくが、昨年度の地域自治区予算で作成した地図の増刷をお願いしたい。それを活用してデジタルウォークラリーというイベントを検討している。予算の詳細については、後で事務局に報告し担当課と調整を依頼したい。

柱5 楽しもう

・令和7年度の東郷PR事業とスポーツバイク普及推進事業に関しては、協議会の意見が反映されているので、提示のあった予算をつけていただければ良い。今回は新たに追加した

いものが2つある。まず1点目に、地域活動団体同士の交流会用の予算を取っていただきたい。楽しもうの地域計画には、野外イベントの実施の目標があるが、どこの団体がどのようにやれば出来るのかということが見えていない。また、団体と協力して一緒に出来るものも考えられるかと思うので、交流会を開催するための年数回分の場所代を取っていただけるとありがたい。もう1点は、着ぐるみを今年度作成する計画だと思うが、その出張費ということで着ぐるみの中に入れていただく方の人件費をつけていただきたい。月1回を1年間の12回、1回あたり3時間稼働、併せて付き添い人も。昨年度の地域協議会から、着ぐるみを作成して効果検証をして欲しいと引き継ぎを受けているので、様々なところに出掛けていき、東郷のPRをしないとイケないと思っている。それをやる上で出張費をつけないと、誰かが無理してやることになるため、人件費ということで出張費をつけていただきたい。

◎主な意見

- 事務局 地域活動団体の交流会というのは何を目的にやるのか。
- 委員 地域団体は体育振興会やケッターパークなども含めて幅広い団体が、どういった活動をしているのかが分かるような交流会をしていただきたい。地域活動交付金団体に限らず、地域で活動している団体全般を招集していただきたい。
- 事務局 あらゆる団体をどのように集めるのか。
- 委員 回覧版などの集め方も含めて検討いただきたい。
- 事務局 団体を集め交流したその先はどうなることを想定しているのか。
- 委員 地域計画は10ヵ年計画となっているが、計画を担っていける団体がいるのか正直分からない状態。また、それを特定の団体に任せるのかというと、それもどうかということもあり、とにかく幅広い団体が交流してその先の事業実施に繋がるような交流会やイベントなどを何とか企画していただけないかということ。
- 事務局 つまり地域計画を実行していくために、計画を担ってくれる可能性がある団体を探りたいということか。
- 委員 そういうこと。
- 事務局 過去の地域活動交付金団体、あとは、最近目や耳にするような団体を事務局の判断で募集させていただき、交流会を開催するというのでいいか。
- 委員 それで結構。

3 その他

◎主な意見

- 委員 地域自治区予算事業計画策定のフローだが、4月は顔合わせだけで、5月はルールや現状の把握となるので、来年度の事業計画を立てるのは実質的に6月と7月の2回だけしかほぼないという形。1年間ある中で2回しか議論が出来ないというのは不十分ではないか。様々なスケジュール上、難しいと思うが、例えば市長建議を後ろに倒していただくことで、もう少し地域協議会で議論が出来ると思う。今のままのだと本当に不十分になってしまうし、委員が同じ認識を持つことも難しいかと思う。今後の1つの課題として、日程をもう少し考えていただけるとありがたい。
- 会長 建議をした後に数回グループで議論できる機会がある。それは次年度に申し送る

事業を計画し、次年度4月になったらすぐに予算立てが出来るように、細かいことは、後で決めていただいて、約2年かけて事業を作っていくイメージでスケジューリングしている。本当であれば、委員の任期を2年3年4年とやっていただければ、メンバーが一緒に、ある程度深い議論が出来ると思うが、単年度で来ていただく方もいるので、上手く次年度に引き継ぎが出来るような形が作ることが出来ればと思っている。市の予算立ての仕組み上、市長建議を後ろに倒すことは不可能に近いので、そういう形でやっていただけるとありがたい。

【21:00 終了】